

6. やさしい育成技術

1歳馬の馴致と人材養成 ~ 馴致前の手入れ ~

軽種馬育成調教センター 技術普及課 齋藤 昭浩

当センターでは牧場で主に育成業務に携わる育成調教技術者の養成研修を行っておりますが、平成 11年より養成期間をそれまでの6ヵ月間から1年間に延長し本年で5年が経過しました。延長された後半の6ヵ月間では若馬の馴致・初期馴致を含め、より実践的な技術の習得を目標としており、研修生のみならず教官をはじめスタッフ一同技術の向上・経験の蓄積に努めております。

まだまだ改善する点がありますが、このコーナーをお借りして当センターの行っております馴致方法とその指導方法を紹介したいと思います。

今回は「馴致前の手入れ」について紹介いたします。

指導のための注意点

未経験者(研修生)にはまず始めにその目的と方法について理論的な点を教え、次いで正しい手本を示します。実施に当り、初めは経験者(教官)と未経験者で作業を行います。経験者は未経験者のほんの少しの間違ひも見逃さず注意することが重要で、常に手本を示すことができる技術を持ち合わせていなければなりません。また経験者は、未経験者にとって高度な知識よりも経験者の小さな注意が最も大きな働きをすることを忘れないよう心がける必要があります。

目的

馴致前の手入れでは、馬体をきれいにする事より、馬の健康状態を知るための検温や、手入れ道具(ブラシ、タオル、裏ほり)に馴れさせ、馬体のどの部分を触っても嫌がらなくすることを目的とします。同時に1歳馬の人に対する従順さを養うことも目的となります。馴致がスムーズに進むか否かは、このステップでの手入れが十分に行えるかどうかと言っても過言ではありません。

方法

手入れは通常馬房内で、常に2人一組で行います。牧場により方法も異なると思いますので、手順の詳細はここでは省略しますが、人馬の安全を確保し、馬に苦痛を与えずに人に対して従順にするために以下の点に注意して作業を進めます。

- ・ **手入れを行う2人は常に同じ側に位置すること**
馬があばれた場合でも保定者に馬の頭を向けさせる事で蹴られる可能性を少なくするため。
- ・ **保定者は馬の頭を出入口付近に向けず、横の壁側に向け保定すること**
馬を実施者に集中させるとともに馬房外への突進を防ぐため。
- ・ **保定者は常に馬に声をかけ、安心させるとともに、馬の行動を制御すること**

基本的に人間が馬を触ることは許されるが、馬は勝手に人間を触ることを許さないことを教え主従関係を確立させるため。特に咬癖につながるので人に噛みつくことはさせない。

- ・ 手入れ時間は、なるべく馬が馬房内を駐立していただける時間内で済ませること
馬に手入れを苦痛に感じさせないため。
- ・ 人が触る事に敏感な馬は、タオルによるパッシングを行う事で、馬体への接触に対する敏感さを鈍化させることが有効である(図1)。
- ・ 検温は、保定者が肢あげや肩を取る事で、容易に安全に行う事ができる(図2)。



図1 タオルによるパッシング

実施者・保定者ともに声をかけ愛撫をすることにより馬に不安を与えないよう心掛けます。



図2 保定者による肢上げと検温

内股など嫌がる部位の手入れにも応用できます。

実施時期と期間

馴致前の手入れは馴致(ロンジングから始め角馬場騎乗まで)を開始する1週間前から実施するのが望ましいと思います。これより短い期間だと手入れに馴れない馬も出てくるので、大半の馬が馴れるための最低期間として1週間と設定しています。

また、この期間にハミ(ブレーキングビット)に馴れさせておく方が良いでしょう。ブレーキングビットの装着は1日30分程度を2日～3日行えば十分だと思います(図3)。



図3 ブレーキングビットの装着

危険防止のため扉、裏戸を閉め、飼い桶や水桶をつるチェーンやタイロープ等は外しておきます。

おわりに

馬を馬房内や洗い場につないで1人で手入れを行えるようにすることが最終的な目標で、これができれば馬はトレーニングのステージが進んでも静かに駐立することや、おとなしく手入れを受け入れることができるようになります。また、この手入れ方法は1歳馬市場(イヤリングセール)上場前の馬や、癖や気性の悪い馬の手入れにも応用できると思います。これからの時期は1歳馬市場も始まり育成牧場でも馴致のシーズンに入りますが、人馬の安全とスムーズな馴致を行うと共に、より多くの若い方々の技術向上を願っています。